

## はじめに

平素より社会的養護における「育ち」「育て」を考える研究会へのご理解ご協力をいただきまして、心より厚く御礼申し上げます。

社会的養護のもとで暮らすすべての子どもの『つながりのある健やかな「育ち」「育て」の保障』を実現するために、平成22年1月、国立武蔵野学院に設置した本研究会は、各関係団体等の十分な協働・連携のもとに、社会的養護における子どもの「育ち」「育て」にかかわる実践的な課題等についての研究を継続的に実施してきました。

さて、平成27年度は、社会的養護のもとで生活している子どもたちのためのアセスメントや自立支援計画をテーマに、平成17年3月に作成された児童自立支援計画研究会編「子ども自立支援計画ガイドライン」をベースにして、研究してきました。

この度、その研究成果の1つとして、「わたしの育ちプラン」ガイド（子ども編）、「親子未来プラン」ガイド（保護者編）、「子ども育ち・育てプラン」ガイド（養育者編）を作成いたしました。

「わたしの育ちプラン」ガイド（子ども編）は、子ども自身が将来の自分の育ちに向かって歩いていく計画を策定するための手引き書です。「親子未来プラン」ガイド（保護者編）は、保護者が将来なりたい親子や家族に向かって歩いていく計画を策定するための手引き書です。「子ども育ち・育てプラン」ガイド（養育者編）は、ケースに関する総合的なアセスメントを的確に行い、「わたしの育ちプラン」や「親子未来プラン」などを踏まえつつ、適切な養育・支援を提供するための計画を策定するための手引き書です。

関係者の方々にとって、これらのガイドが、子どもや家庭についてのアセスメントや自立支援計画について考えるための契機となり、さらにその理解を深め、子どもの健全育成に結びつくのであれば、大変うれしく思います。また、これらのガイドが、実践現場において、子ども、保護者、養育者をはじめ、多くの社会的養護関係者はもとより、子どもの健全育成に関わる関係者の方々にも有効に活用されることを願っております。

関係者の方々におかれましては、この3つのガイドを積極的に活用して頂き、一人ひとりの子どもの理解を深め、その子どものニーズなどに応じられるプランを策定して、適切な養育・支援を提供することに役立てて頂けたら幸いです。

最後になりましたが、本研究にご協力をいただきました当事者である子ども・保護者・養育者をはじめ、各種別の協議会及び関係者の皆様方のご尽力により、このガイドが完成できましたことに対しまして、この場をお借りしまして、心より深謝申し上げます。

平成28年3月

国立武蔵野学院長 相澤 仁

# もくじ

## 未来を開こう！「子ども育ち・育てプラン」ガイド（Ver.1）

### はじめに

このガイドを手にした方々へ	.....	1
<b>「子ども育ち・育てプラン」ガイド（養育者編）</b>	.....	<b>4</b>
はじめに	.....	5
第1部 「子ども育ち・育てプラン」についての概要	.....	6
第2部 子ども育ち・育てのためのアセスメント	.....	9
様式：ケース概要票	.....	30
第3部 「子ども育ち・育てプラン」の策定とその展開	.....	32
子ども育ち・育てプラン記載要領	.....	38
様式：子ども育ち・育てプラン（目標シート）	.....	41
様式：子ども育ち・育てプラン（実践シート「子ども」）	.....	42
様式：子ども育ち・育てプラン（実践シート「家庭」）	.....	43
様式：子ども育ち・育てプラン（実践シート「地域社会」）	.....	44
様式：子ども育ち・育てプラン（発見ノート）	.....	50
第4部 「子ども総合評価票」の解説と活用について	.....	51
参考資料1：子ども家庭総合評価票電子版		
「さぼーとくん Ver.1.0 ユーザーズガイド」	.....	107
参考資料2：Windows7 のインストールについて	.....	125
<b>「わたしの育ちプラン」ガイド（子ども編）</b>	.....	<b>128</b>
はじめに	.....	129
様式：わたしの育ちプラン	.....	137
作成にあたっての養育者の留意事項	.....	139
<b>「親子未来プラン」ガイド（保護者編）</b>	.....	<b>140</b>
はじめに	.....	141
様式：親子未来プラン	.....	145

<b>モデルケースによるプラン（例）</b>	<b>・・・・・・・・148</b>
モデルケース（例）	・・・・・・・・149
各プランの策定（作成）時期（モデルケースの例）	・・・・・・・・151
ケース概要票（見立て）	・・・・・・・・153
総括一覧シート	・・・・・・・・157
子ども家庭総合評価票の項目からみたケースの特記すべき特徴	・・・・・・・・162
子ども育ち・育てプラン（目標シート）	・・・・・・・・165
//            （実践シート「子ども」）	・・・・・・・・166
//            （実践シート「家庭」）	・・・・・・・・172
//            （実践シート「地域社会」）	・・・・・・・・177
//            （発見ノート）	・・・・・・・・179
わたしの育ちプラン（振り返りシート）	・・・・・・・・184
//            （なりたい自分になるプラン）	・・・・・・・・185
親子未来プラン	・・・・・・・・189
<b>子ども家庭総合評価票（抜粋：「幼児期」（2歳～就学前））</b>	<b>・・・・・・・・196</b>
記入要領	・・・・・・・・197
パートⅠ 子ども	・・・・・・・・198
パートⅡ 家庭	・・・・・・・・209
パートⅢ 地域	・・・・・・・・219
総括一覧シート	・・・・・・・・222
記入のめやすと一覧表（全種類共通版）	・・・・・・・・229
Index	・・・・・・・・230
はじめに	・・・・・・・・232
パートⅠ 子ども	・・・・・・・・233
パートⅡ 家庭	・・・・・・・・244
パートⅢ 地域	・・・・・・・・248
<b>編集・執筆者一覧</b>	<b>・・・・・・・・252</b>

## このガイドを手にした方々へ

児童福祉施設で養育している職員や里親のみなさん、社会的養護に関係しているみなさんがたへ。

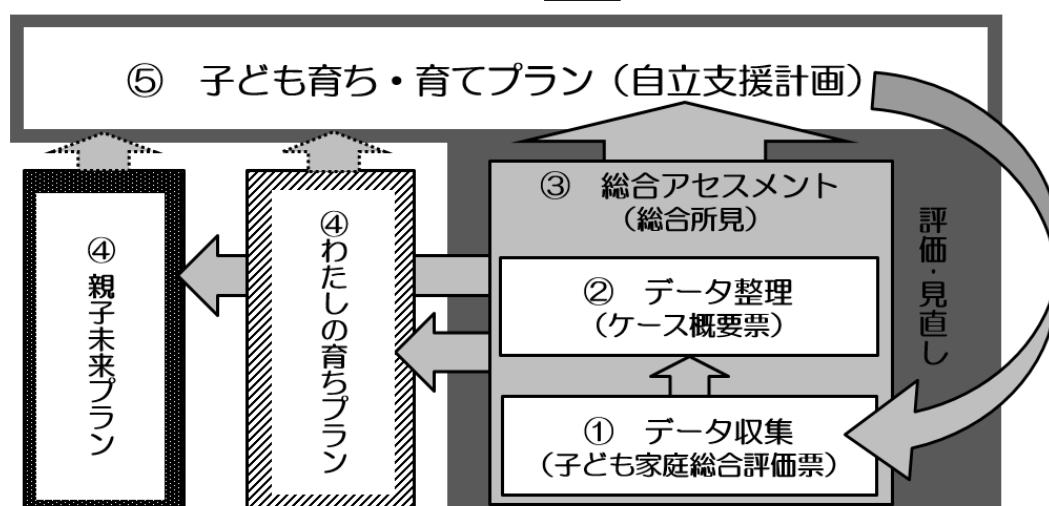
「子ども育ち・育てプラン」ガイドは、以下の順に3つのガイドで構成されています。

1. 「子ども育ち・育てプラン」ガイド（養育者編）  
養育者がケースに関する総合的なアセスメントを的確に行い、「わたしの育ちプラン」や「親子未来プラン」などを踏まえつつ、適切な養育・支援を提供するための計画を策定するための手引き書です。
2. 「わたしの育ちプラン」ガイド（子ども編）  
子どもが自分自身やその育ちについて理解を深め、関係者の方々と相談しながら将来プランを策定するための手引き書です。
3. 「親子未来プラン」ガイド（保護者編）  
保護者が自分自身やその家族について理解を深め、子どもや関係者と相談しながら将来プランを策定するための手引き書です。

このプランやガイドの関係及び各ガイドの構成については、次の図1 三つのプラン・ガイド関係図で示した通りです。

図1 三つのプラン・ガイドの関係図

■ 「子ども育ち・育てプラン」ガイド（養育者編）  
▨ 「わたしの育ちプラン」ガイド（子ども編）  
■ 「親子未来プラン」ガイド（保護者編）



「子ども育ち・育てプラン」の策定にあたって、「わたしの育ちプラン」「親子未来プラン」の2つの策定を養育者が急ぐと、「子ども」「保護者」が自分のペースで作るべき各プランが養育者主導（誘導）のプランになってしまう恐れがあるため、必ずしも策定期間を合わせる必要はない。ただし、策定した時点で、必ず「子ども育ち・育てプラン」に反映させること。

次に、アセスメントとプランの策定のプロセスですが、次のような流れ（番号順）で行うことが基本です。

#### ① データ収集（子ども家庭総合評価票）

養育者（里親や施設職員）は、児童相談所等関係機関から得た子どもの情報を、子ども家庭総合評価票などを活用してチェックします。そのうえで、不足しているデータ（児童調査票や措置変更前の施設等、医療機関、学校関係などの記録等）を児童相談所などの関係機関から再度収集します。

#### ② データ整理（ケース概要票）

上記①のデータから、的確なアセスメントを行うために、その子どもの「ケース概要票」を作成します。

#### ③ 総合的アセスメント（総合的所見）

上記①および②に基づき、組織としての総合的なアセスメント（総合的所見）を行います。これらの作成については、「子ども育ち・育てプラン」ガイド（養育者編）を参照してください。

#### ④ 「わたしの育ちプラン」・「親子未来プラン」の策定

上記③を作成した後、子どもについては「わたしの育ちプラン」、（可能な）保護者については「親子未来プラン」を策定します。それぞれ「わたしの育ちプラン」ガイド（子ども編）、「親子未来プラン」ガイド（保護者編）を参照してください。

#### ⑤ 「子ども育ち・育てプラン（自立支援計画）」の策定

上記③および④を参考にして、「子ども育ちプラン」を策定します。策定にあたっては、「子ども育ち・育てプラン」ガイド（養育者編）を参考にしてください。

なお、「子ども育ち・育てプラン」の策定にあたっては、上記④のとおり「わたしの育ちプラン」「親子未来プラン」の実施が済んでいることが望ましいのですが、そこにこだわり、策定を急ごうとすると、「子ども」「保護者」が自分のペースで作るべき各プランを養育者主導（誘導）のプランとしてしまう恐れがあるため、必ずしも策定期間を合わせる必要はありません。ただし、策定した時点で、必ず「子ども育ち・育てプラン」に反映させてください。

①～⑤まで順番に取り組んだ後は、図1で示した通り、評価をしてプランの見直しを図るために再び①に戻り、①～⑤まで順番に取り組んで行くことになります。

このガイドは、子どもや家庭などについての的確なアセスメントをするために、あるいは子どもの適切な健全育成や自立支援のためのプランを策定するために、どのように取り組んでいけばよいのか、その一助となるために作成したものです。

どのようにアセスメントしたらよいのか、計画を策定したらよいのか迷ったとき、あるいは援助や支援が進まないときなどは、是非ともこのガイドを開いて見て下さい。子どもと家庭・地域に対するアセスメントや支援計画を立てる上でのヒントを得ることができると思います。

どうぞ、このガイドを、みなさんがアセスメントや計画策定のあり方について深く検討していくための1つの参考書として活用していただければと思っています。

さらに、このガイドには2つのCD-ROMが付いております。1つのCD-ROMには、子ども家庭総合評価票と総括一覧シートが収められています。子どもの状況に応じた子ども家庭総合評価票と総括一覧シートをセットで選択し、それをコンピュータ上で開いて印刷して、実用できますので、積極的に活用して下さい。

もう1つのCD-ROMには、「子ども家庭総合評価票電子版：さぽーとくん ver 1.0」が収められています。「子ども家庭総合評価票電子版：さぽーとくん ver 1.0」は、「子ども家庭総合評価票」「総括一覧シート」「記入のめやすと一覧表」を電子化し、子ども家庭総合評価票の記入作業をパソコン上で行うことができるソフトウェアです。子どもや家庭に対して相談援助をするためのアセスメントツールとしてご活用下さい。

インストールについては、「子ども育ち・育てプラン」ガイド（養育者編）に掲載されている「子ども家庭総合評価票電子版「さぽーとくん Ver.1.0 ユーザーガイド」や「Windows7のインストール」に従って行って下さい。

なお、このソフトウェアはスタンドアローン型で、完全に他のコンピュータから切り離された形で使用するものですが、個人情報を取り扱うこととなりますので、インターネットへの接続環境等にはくれぐれも留意されますようお願いいたします。

※ 三つのガイドについては、国立武蔵野学院ホームページに別々に掲載していますので、子どもや保護者に配布する場合には、ホームページから、それぞれのガイド（PDF）を印刷し、活用することもできます。

また、書き込み用の様式（ワードまたはエクセル）も別ファイルで掲載しています。